

18 こんにゃくは石油から？ー食べ物生き物だー

最近の子どもたちは、自然について知らないことがあまりにも多い。奈良県中学校理科教育研究会生駒・郡山ブロックでは、こうした実情を踏まえ、これからの理科教育はいかにあるべきかを探ることにした。この中心になったのが、津本幸雄、乾至完の両先生と私の3人で、昭和52年8月、奈良市を会場に開催した第24回全国中学校理科教育研究会奈良大会で報告した。14名の部員を代表して行ったこの報告は、問題点を明らかにし具体的な取り組みを進めたことで、全国の理科教師に評価された。この1連の研究の1つに、次の調査がある。

次の(1)～(6)のそれぞれの食品は、何から作られているでしょうか。それぞれア～エの記号で答えなさい。

- | | | |
|----------|----------|-----------|
| (1) 砂糖 | (2) かまぼこ | (3) とうふ |
| (4) かんてん | (5) チーズ | (6) こんにゃく |

[解答群]

- ア 動物である イ 植物である ウ 生物ではない
エ 知らない

この調査の結果は私たちが驚かせた。「知らない」という答えの多いことはともかく、問題は「生物ではない」という解答を選んだものの多さである。この結果を表したグラフを見てほしい。こんにゃくでは25%、砂糖でさえ22%の者が「生物ではない」と答えていて、生物である私たちが生物に依存して生きていることが理解できていないのである。

かまぼことチーズについての正答が比較的多いのは、この調査を行ったとき、「200 海里条約」が新聞やテレビのニュースをにぎわせ、

テレビで放映されていた「アルプスの少女ハイジ」で、主人公のおじいさんが山羊の乳を原料にチーズを作っている風景が印象に残っていたからであろう。

この調査結果や昨今の中学生の自然ばなれの状況と各中学校における対応については、奈良市を会場に開かれた日本理科教育学会近畿

支部大会奈良大会でも報告した。そして、

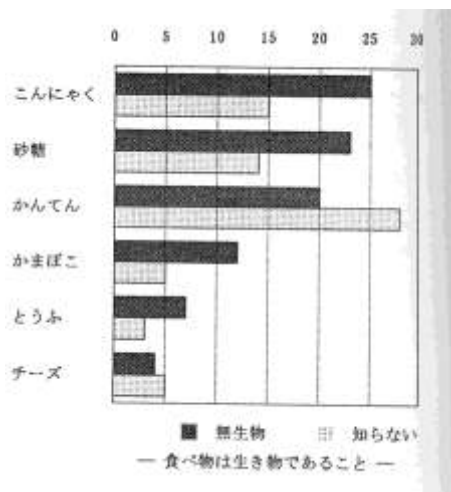
「生活から季節感が失われてきている今こそ、それぞれの校種で積極的に自然に触れる場を作り出そう」

と保育園、幼稚園、小・中・高等学校、障害児教育諸学校、大学などからの参加者や理科教育の関係者に訴えた。生駒・郡山ブロックの私たちの夢は、

「ウノハナの匂う山道をウグイスの声を聞きながら歩き、スイカズラの蜜を吸い、キイチゴの実を食べるような理科教育を創造したい」ということであった。

この翌日、昭和 52 年 10 月 16 日付けの読売新聞・奈良版には、この大会での発表について、「アリヤトンボが描けぬ、砂糖・こんにゃくは石油からできる」という見出しの記事が掲載された。

「こんにゃくは石油からできる」というのは、植物や動物など生物起源のものではないと考えているということの比喩的表現であったが、こうした中学生の実態は反響を呼んだようで、当時の奈良県教育委員



会学校教育課指導主事の植田正家先生によると、県内のこんにゃく製造業者団体の方から、

「もし、必要があれば、どうぞ見学に来てください。石油が原料ではありません。厳選された良質のこんにゃく芋が原料になっているおいしい食べ物なのです。こんな記事（こんにゃくは石油から）が出ると売れ行きにも響きますから」

というお話があったそうである。

今でも、山のほうに行けばこんにゃく芋が栽培されており、あの特徴ある茎を見かけるが、その地下にこんにゃくの原料となる芋がかくれているとは知らない人が多いことであろう。しかし、砂糖の原料を知らないという結果に驚かされた。砂糖は、ごく身近な物質である。砂糖はいったい何からできていると考えていたのだろうか。

この答えを間違えた生徒の何人かに尋ねてみた。そのうちの1人は成績がトップクラスの生徒であり、サトウキビの生産高のトップがキューバであることまで知っていたが、「それが砂糖の原料なのですか」とのことであった。極端な1例とは思うが、理科教師として心してかからねばならないことである。